

研究ノート

百貨店の国策展覧会をめぐる*

難 波 功 士**

【1】はじめに

まず表を眺めていただきたい。これは昭和10年代の東京朝日新聞（大阪朝日との合併後は朝日新聞東京版）に掲載された百貨店の広告から、「国威発揚」「戦意昂揚」や「戦時生活の啓蒙」など、国策プロパガンダに関係すると思われるイベントを抜粋したものである。戦後10年以上を経て生まれた筆者などは、戦時中といえば一切の娯楽や消費を奪われた暗黒の期間と想像しがちだが、意外なことに百貨店催事は、それが国策によるものであるにしろ、1943（昭和18）年辺りまで活発に行われていたようだ。新聞自体のページ数や広告段数激減の中で(1)、こうした百貨店の展覧会広告の突出は際立っている。しかし、管見の限りでは「百貨店の国策への関与」を扱った先行研究、もしくは百貨店という会場や展覧会という形式に照準した研究はあまり見当たらない(2)。戦時中になぜこれだけの国策展覧会が百貨店で開催されたのか（もしくは新聞広告で告知されたのか）、その社会的・歴史的意義をどうとらえるべきなのだろうか。本ノートでは、先行研究の整理等を通じて、それらの問題を考えていきたい。

【2】popular culture としてのプロパガンダ

これまでプロパガンダに関しては、全体主義国家における、ラジオや新聞などマスメディアによる意識の操作・支配の過程を対象とした社会心理学的な研究が、質量ともに圧倒的であった。だが、プロパガンダ概念において“from mass culture

to popular culture”という視座の転換を求める Edelstein は、プロパガンダ研究においても「マスカルチャーにおける受動的なメンバーシップという限定された概念は、ポピュラーカルチャーにおけるより能動的な参加へと道を譲ろうとしている」と主張している (Edelstein [1997:8])。もちろん、マスカルチャーやそれにもとづく従来型のプロパガンダ観を「受動性・支配」によって特徴づけ、「能動性・参加」を特質とするポピュラーカルチャーにもとづく「新たなプロパガンダ (New-prop)」——自由主義経済下における広告や政治的キャンペーンなど——を対置させる Edelstein の概念整理には異論の多いところであろう。しかし、少なくとも原則的には自由参加であった百貨店での国策展覧会——強制的な動員が可能であれば新聞広告を出す必要もない——の隆盛などをみると、Edelstein が主張するように、一概に「プロパガンダ＝一方的な洗脳」と言えないことも確かである。だが、戦時期の日本において、行政機構を通じての上意下達や、教育・宗教・言論・報道などの統制によるものではなく、人々が自発的に参加し、楽しみながら関与していった「ポピュラーカルチャーとしてのプロパガンダ」の事例研究は、最近ようやく始まったところである(3)。

【3】メディアとしての百貨店

今度は視点を変えて、この時期の百貨店に関する先行研究を見ておく。百貨店の成り立ちとその社会的な役割や背景に関する研究は、初田 [1993]・神野 [1994]・山口 [1995]・吉見 [1996] など、近年目覚ましい展開を遂げている。そ

*キーワード：国策展覧会、百貨店、プロパガンダ

**関西学院大学社会学部専任講師

これらの論点を乱暴にまとめてしまえば、①勤工場や博覧会の機能を吸収していった「エキジビションの装置としての百貨店」、②店内の陳列・催事や広告・PR誌などを通じての「消費のテイストメーカーとしての百貨店」、③都市大衆文化の隆盛と都市空間における「遊歩」の流行のもとでの「レジャーの場としての百貨店」の強調、ということになるだろうか(4)。要するに、テレビなどが普及する以前には、百貨店はビジュアルなメディアとして大きな地位を占め、かつそのメディアに盛られるコンテンツの製作も百貨店がイニシアティブを持ち、人々は単なる消費者としてだけではなく、「メディア(およびコンテンツ)としての百貨店」の受け手としても存在していたのである。そうした「メディアとしての百貨店」の、未だ多くを語られていない側面として、ここでは以下の三点を挙げておきたい。

一つには、百貨店をメディアとして考えた時、その関心は博覧会や音楽会などの各種イベントの開催やその建築様式に集中してきたが、百貨店のショーウィンドウの果たした役割は、今後解明されるべき大きな課題であろう。例えば、1929(昭和4)年には下澤瑞世『広告・窓飾の新傾向』(博文館刊)が、その翌年には水田健之輔『街頭広告の新研究』(アトリエ社刊)が刊行されており、ウィンドウ・ショッピングという娯楽の成立とともに、広告メディアとしての店頭および街頭空間の存在の大きさをうかがい知ることができる。もちろん、ショーウィンドウは百貨店だけが設置していたわけではないが、その展示技術上の最先端を担っていたことは確かであろう。二つ目は、これまでの百貨店研究が、日本橋三越ないしは梅田阪急など、東京および関西圏の事例に集中している点。大正から昭和にかけて全国各地に百貨店が開設されており(内川[1976:280])、地方都市の百貨店こそ「カルチャーセンター」(山口昌男)としてより大きな役割を果たしていたことは想像に難くない。そして最後に、戦時期にその展示会のコンテンツが国策プロパガンダに傾斜していった具体的なプロセスが、ほとんど解明されていない点。以下、この三番目の問題に関して、現在行い得る範囲での考察を示しておきたい。

【4】プロパガンダのメディアとしての百貨店

1) 国策への順応の軌跡

大正から昭和にかけて広告主として急速な成長を遂げた百貨店は、また博覧会・展覧会等の企画・製作・実施の主体としても発展を続けている。当時高島屋総支配人であった川勝堅一は、百貨店の催事には「五月人形の陳列会に際して古代の太刀、武具、甲冑、の蒐集展覧会を催す」等の「営業政策上から来た催物」や、「女学校の手芸品の展覧会」など「特殊な階級のお客様を呼ぶことの出来る催物」以外にも、いわゆる「特別大催し」として「社会のあらゆる層に呼びかける魅力を持つ所の時局に即してニュースバリューに富むもの」も行われており、「我が国では昭和二年に大阪長堀橋の高島屋で日光博覧会を開催したことがありましたが、この時見物のお客様は店前七八丁も列をなして一日の入場員数は、未だに斯界のレコードとなって居ります。古い所では三越さんの『児童博覧会』など相当成功を収めました」と語っている(川勝[1936:17-20])。しかし、「百貨店の宣伝戦が最も華やかであったのは昭和二三年頃から十一年までで其の絶頂と言ったら十年、十一年の二年間」であり、それ以降日中戦争の勃発とともに、「昭和十三年二月に日本百貨店商業組合が解散して日本百貨店組合となり百貨店法が適用せられて完全に商工省の監督下に置かれる事になった時を以て百貨店は一齐に国策宣伝に発向した」(白根[1939:22])。

こうした統制強化の動きに対して、百貨店業界側は百貨店という業態の公共性を繰り返し主張している。例えば「百貨店の文化進展に関する貢献」として、百貨店には美術展や工芸品展によって「美術思想の開発」「趣味を高尚にする」だけではなく、意匠部に「技芸家」を抱えるなど「美術家の為の温室」や、展覧会等による「通俗教育への貢献」といった機能を持ち、中でもショーウィンドウは販売促進のためだけのものではなく、「祝満州建国」とか『実業教育五十年記念』を祝すという意味の窓飾り、或は『樹を愛しましょう』という意味の窓飾りが、どういう関係に於いて商売促進の意味になりうるのであろうか。而も公共の

催事に対しては百貨店は率先して貴重なる窓飾りを提供するのに吝かでないのである」(百貨店事業研究会 [1935: 56-8])。

つまり百貨店は、時局に反した「消費」「娯楽」の場としてではなく、国策に順応したプロパガンダのメディアとして自らを位置づけたのである。日本百貨店組合事務長であった伊藤重治郎も、百貨店の公的な役割として「一、低物価政策に協力」「二、税法の解釈と良心的変更」「三、物資の提供」とともに「四、公共的宣伝に奉仕」を挙げ、「百貨店という建物は市内目貫きの要所あって建築自体も目に付き易く、大衆に親しまれて居るものだけに、そこに大きな垂れ幕が懸ったり、窓飾りが行われたり、或は大きな催物がせられたりして居ると、街一面に『踊って』居る如き観を呈する」上に、『『百貨店は大勢の人が集まるから』とかいうので色々の仕事をさせられて居る。率先して麦飯の手本を示してくれ。混合食の模範を出してくれ。安く悦ばれる慰問品の手本を作って売って欲しい。防空用品の効果的な値段品を。金銀製品の買上に場所を提供してくれ、百円以上の不急な要品を買った人には五割の国債を買わせてくれ。百貨店の売場員も段々団服や国防婦人会員の褌になって来つつある」と述べている(伊藤 [1935: 25-6])。

また高島屋営業部長の「事変以来百貨店の国策協力日誌」には、1939(昭和14)年の中元期に「新聞広告は其の使用スペースを全四段(一頁約四分の一)以下に止むること」「アドバルーン、楽隊等に依る広告若くは宣伝を行わざること」「広告其の他の宣伝に刺戟的な図案、意匠並びに字句を用いざること」といった自粛が申し合わされ、その9月9日には「飾窓一箇を国策ウインドウとすること」「平日は午後八時限り飾窓を閉鎖すること」、さらには翌年9月20日には「新体制に即応し」「商品売場の配置を国策化すること」「催場を公益的宣伝に提供すること」「徒らに消費を刺戟する如き広告を為さざること」等々の取り決めがなされ、この日「日本百貨店商業報国聯盟の結成をみ、全百貨店人一丸となって報国の大道に邁進する態勢成りしこと」といった記述が見える(木村 [1941: 49-52])。

2) 国策展覧会の実際

こうした百貨店の国策協力の中心に「国策展覧会」とその新聞広告による告知があったわけだが、そのテーマは、日中戦争頭初の「輝かしい皇軍の戦果を讃える為の陸海空軍に関する展覧会」に始まり、「之と同時に、輝く皇軍の戦果と進展と共に開けゆく大東亜の実情の紹介が之亦前者に劣らず全国的開催され」「紹介展から更に国策的な新東亜建設展となり南進展となり太平洋展と」なっていく、そして「時局国民生活に関係した生活展」や「精神運動、文化運動への協力としての展覧会」、さらには「文化的な同時に国策的な意義深いものとして、思想戦展、防諜展、防共展が全国に於て巡展され」る等々、実に多岐にわたっている。また、その展覧会製作の実態は、「一流デパートにおいては直属する特定工作所を有して常に展覧会その他の工作物を製作せしめている」場合もあるが、「臨時に雇用したり請け負わせ」、その「製作者の経済的、社会的地位が旧態依然たる水商売的である」ため、製作・展示の技術面で見劣りするものも多かったという(森山 [1941: 34-5])。

大阪高島屋宣伝部図案課に所属していたデザイナー今竹七郎によれば、展覧会の進行を担当していた宣伝部内の計画課が、1939(昭和14)年に「催し物部」として独立した以降も、その実施には多くの宣伝部員が関わっており、また今竹が最初に入社した神戸大丸意匠部では、入社早々主任に「あんたには図案を書いて貰うのは勿論だが、売り場の装飾や、催し物の装置もやって貰わねばならんかも知れぬ」と展示会準備の見学を命じられ、その主任は「会場の図面を広げながら、場内を渡り歩いて、何十人かの雑役と大工と表具屋と人形屋を大きな声で督励」していたという(今竹 [1939: 5-6])。「一流デパート」では展覧会要員を社内に確保しており、高島屋と乃村工藝社との関係のように、ほぼ専属に近い形でいわゆる「ランカイ屋」を抱えることも可能だったわけだ(5)。また1940(昭和15)年8月号『広告界』の特集「全国の商業美術家へ戦時生活の様相を聞く」には、「幾分活気のあるのは百貨店勤務の作家であるが、それもポスター新聞広告、パンフレット等の係は机の上でアクビをしている位いが関の山で、催物

や店内装飾の方に使われている有様である」といった、地方在住のデザイナーたちの声が寄せられている。通常の広告業務が激減する中で百貨店の図案家は展覧会製作にかりだされ、また大規模な博覧会が無くなる中でランカイ屋たちも百貨店の国策展覧会に生きる道を求めていったのであろう。

そして、展覧会製作の主体として見落とせないのは、新聞社の事業部や広告部の存在である。例えば、「展覧会会場としての百貨店が従来のように商品の宣伝を、その企画の中に持ち、その企業に基づく催が売上げと密接な不可分の関係にあった時代から」、国策への協力によって「利潤面との切断が愈々深刻になるにつれ、又展覧会の続開に伴って之が経済的支弁問題が百貨店間に矛盾となって」くるにつれ、百貨店が「特定工作所や技術家」を抱える方法が困難となる中で、「新聞社の展覧会として毎日文化教室が大東亜戦争以来五十本に渉るあらゆる国策展を全国に巡展させたという特筆べき記録」を残しているという（小川 [1943:9]）。この大阪毎日新聞社による「大毎（毎日）文化教室」に関する詳細は不明だが、「文化教室」という名称ながらも、実質的にはプロパガンダのための展覧会であり、その製作のための工房も存在したようだ(6)。

3) 国策展覧会の最後

当時三越の宣伝部長であった宮崎博史によれば、開戦以後「部長の仕事は、大政翼賛会や情報局に、日参することになってしまった。それに、新聞社の事業部を通じて、陸軍や海軍の展覧会を開催することであった。国策宣伝の展覧会をすると、針金や角材やベニヤ板の資材を貰うことが出来た。これを貰うことが、当時光栄でもあり、資材不足の折柄、事実有難かったのである。……店内には僅かな配給品以外は売べき商品がなかった」という（宮崎 [1955:1-11]）。また喜多川周之は、1943（昭和18）年頃の銀座の様子を次のように描いている。この年の「決戦標語は、『撃ちてしまむ』」であった。三月一〇日の第三八回陸軍記念日を押し出すように、日本劇場の正面には百畳敷の大写真が掲出された。それは突貫を叫びながら、敵軍に手榴弾を投げかける兵士の姿である。

……松屋でも三越でも松坂屋でも、縮小されたデパートの売場には、軍需会社や交易営団などの事務所が設けられてゆくのであった」（喜多川 [1982:215]）。この大写真壁画は、大阪でも難波高島屋正面に取り付けられ、「これに呼応して店頭ウィンドウに、人気者のフクチャンが撃ちてしまむの幟をもって闊歩するマンガのパネル約三メートル」が描かれたという（乃村工藝社 [1975:110]）。

戦争末期、百貨店での展覧会すらも開催不可能となっていく中で、国策プロパガンダの新たなメディアとして注目されたのが「移動展覧会」であった。これは街頭や学校・工場などのスペースを利用して行われるパネル形式の展覧会であり、1941（昭和16）年には内閣情報局の肝いりで「日本移動展協会」が設立されている（渋谷 [1978:203]）。一例を挙げれば、1943（昭和18）年に行われた大日本飛行協会による「航空産業戦士に感謝の報道展」は、「巡回に先立ち、銀座松屋地下道で内示会を開催した」後、実際に「全国の航空機生産工場を巡回する組立式展覧会」であったという（報道技術研究会 [1943:316]）。またこの年、先述の毎日文化教室でも、その「生産戦に勝ち抜こう」展の「川崎〇〇工場日本アルミ〇〇工場での開催は、非常な好評を得、愈々本格的にこれを贈り出すこと」を決定している(7)。そして、1944（昭和19）年には「国民大衆との重要な慰安娯楽の場所」であるとともに「国民教育の一翼」を担う「映画劇場に展覧会は進出し」、神戸阪急会館映画劇場などに設けられた「戦う市民の教室」では、映画館の「空閑場所や休憩室、廊下等を利用して小さいながらまとめられた会場で映画を待つ時間が活用され、大衆に明るい気分で見られ、深い共感の喜びを与えずには措かない国策宣伝が定期的に開催されている」という（小川 [1944:12]）。

一方、百貨店でも展覧会は細々とではあるが続けられていた。1944（昭和19年）の2月から3月にかけて、難波高島屋七階の大阪市立戦時生活館で開催された「急げ生産挺身展」では、「会期も後半になり観覧人員も峠を越したと思われる頃になって」それまで1日5千人程度だった入場者が、約2万6千人へと急上昇したが、それというのも「『高島屋で、スパイが晒しものにされてい

る』『展覧会でスパイを陳列している』『展覧会でスパイが檻に入れられている』いや『ガラスの箱入』だとか『鎖につながれているのだ』とか、更に『女のスパイが三人もいる』『押掛けた見物人がスパイに唾をひっかけている』等と、流言は急速に成長をし、しまいには、『スパイが磔にされている』『スパイの晒首が陳列されている』『スパイの歯を抜いたのが置いてある』等々の噂が流れ、それを聞きつけた人々が殺到したからであったという(金田 [1944:6])。結局、国民の啓発・啓蒙を旨とした国策展覧会も、その最後には流言蜚語の火種でしかなかったわけだ。

【5】おわりに

冒頭で提出した「なぜ戦時中に百貨店での国策展覧会が多く開催され、広告されたのか」への回答として、現時点で言えることは、①当時百貨店には文化的イベントを製作・実施していくノウハウや人材・人脈が蓄積されており、情報の発信や娯楽の場としても巨大な存在であった点、②「戦争中は百貨店は三種産業と目され、まさに軍需工場に転換される一歩手前まで来ていた」がゆえに、より強く「国策遂行の展覧会場とか、いろいろ苦しい題目を唱えて」存在理由を示さざるを得なかった点(宮崎 [1955:41-2])、③そのため百貨店業界の広告自粛も、他の業種の広告主と同等かそれ以上に励行され、売るべき商品の欠乏もあって、結果的に国策展覧会中心の広告が多くなった点、④またビジュアルなメディアが未発達であった当時、大規模な博覧会が開催不可能となっていく中で、展覧会の地位が相対的に上昇した点、⑤以上のような理由から、内閣情報局を始めとするプロパガンダ機関や新聞社・通信社が、メディアとしての百貨店や展覧会を積極的に利用した点、などであろう。

これらの具体的な検討は後日を記すしかないが、さらに今後探求されるべき問題として、以下の点を挙げておきたい。まず、国策展覧会が時には京城(現ソウル)三越にまで巡展されていたように、海外に進出した百貨店の果たしたプロパガンダ装置としての役割である。対外的なプロパガンダといえば『FRONT』等のグラフ雑誌が有

名だが、百貨店での展覧会や「泰国向写真壁画展」といった移動展の果たした役割、さらには占領地での軍宣伝班が企画・製作した展覧会等に関しても、その多くが未だ解明されていない。また、当時の広告やデザイン関連の雑誌には、ニューヨーク万博のパビリオンを事例とした「新しい展示様式の構成」や、「ファシスト・イタリアの展示技術」といった記事が多く見られるが、日本の国策展覧会とその技術のあり方を、国際的な文脈の中にどう位置づけていくのかも、依然語られていない論点のように思う。こうした諸点をふまえ、娯楽としての、大衆文化としてのプロパガンダについての考察を深めていきたい。

※本稿での資料の引用には、一部旧漢字・旧仮名遣いを書き改めた箇所があります。

- (1) 東京朝日の場合、1937(昭和12)年の「朝刊12頁夕刊8頁、広告119段」をピークに、1940(昭和15)年「朝刊10頁夕刊4頁、広告97段」、1942(昭和17)年「朝刊4頁夕刊2頁、広告15段」、1945年(昭和20)年「朝刊2頁、広告2段」へと激減していく(津金澤 [1998:304])。
- (2) 百貨店の国策展覧会については、吉見 [1992] が博覧会と百貨店の関連という文脈の中で、また古川 [1998] が1940(昭和15)年の「皇紀二六〇〇年」イベントの一環として注目している。
- (3) 筆者の知る範囲では、ファッション・風俗・アマチュア写真などへの統制や国策協力を幅広く扱った南+社会心理研究所 [1987] や、ツーリズム(観光・行楽)や音楽界などの組織化に関する論文を集めた赤澤・北河 [1993] を始め、国策映画(ハイイ [1995])、スポーツ(坂上 [1998])、花電車などの街頭装飾(橋爪 [1998])、文学界の組織化(櫻本 [1995])、戦時下の漫画界(清水 [1995])や紙芝居業界(櫻本・今野 [1985])などの研究、演劇や紙芝居を事例として娯楽や大衆文化とプロパガンダとの関係を論じた赤澤 [1985] [1995] など。また、この時期のメディアと文化のあり方に関する、新たな展開として津金澤・有山 [1998]。
- (4) 都市遊歩者の百貨店への吸収を、映画というメディアの出現の問題と絡めて検討した刺激的な論考として中村 [1998]。遊歩・「気散じ」と

- いう身体技法の成立を、よりはば広い社会的・文化的文脈の中で探った画期的な仕事として北田 [1997] [1998]。
- (5) 乃村工藝社 [1975] 参照。他には、当時味の素に籍を置いていた大智浩が「東亜民族体育展」(大日本体育協会主催、会場銀座松屋)を、パリから帰朝した里見宗次が「新体制早わかり展覧会」(大阪毎日新聞社主催、会場大阪松阪屋)を手がけるなど、有名なグラフィック・デザイナーが展覧会の製作に参加した例も多い。
- (6) この一文が『印刷報道研究』(『プレスアルト』から改題)に載った際の、筆者の肩書きにある「日本展覧会製作配給社」に関しても一切が不明だが、『プレスアルト』誌上に「大毎文化教室」の肩書きで展覧会月評などを執筆していた小林敬三が、1944(昭和19)年3月の『印刷報道研究』終刊号に、「日本展覧会製作配給社理事」の肩書きで「展覧会礼賛」という文章を寄せているところみると、両者の間には何らかの関係があるのかも知れない。
- (7) 1943(昭和18)年5月号の『印刷報道研究』の記事「生産拡充と展覧会の歩む道」より。これは「毎日文化教室工房員」による匿名記事。

【参考・引用文献】

赤澤史朗 1985 『近代日本の思想動員と宗教統制』 校倉書房
 1995 『戦中・戦後文化論』『日本通史第19巻』岩波書店
 赤澤史朗・北河賢三編著 1993 『文化とファシズム』日本経済評論社
 Edelstein, Alex 1997 “Total propaganda: From mass culture to popular culture” LEA
 古川隆久 1998 『皇紀・万博・オリンピック』中央公論社
 橋爪紳也 1998 『祝祭の〈帝国〉』講談社
 初田亨 1993 『百貨店の誕生』三省堂
 ハーイ, ピーター 1995 『帝国の銀幕』名古屋大学出版会
 報道技術研究会編 1943 『宣伝技術』生活社
 百貨店事業研究会編 1935 『百貨店の実相』東洋経済新報社
 今竹七郎 1939 「百貨店の図案家の話2」『プレスアルト』26
 伊藤重治郎 1940 「時局下に於ける百貨店の職能」『日本電報』8703

神野由紀 1994 『趣味の誕生：百貨店がつくったテキスト』勁草書房
 金田廣一 1944 『「スパイ晒しもの」流言記』『印刷報道研究』73
 川勝堅一 1936 「百貨店と催物」『三田広告研究』20
 木村宗一 1941 「時局下百貨店の国策協力」『日本電報』8711
 北田暁大 1997 「〈気散じ〉」の文法『東京大学社会学情報研究所紀要』54
 1998 「〈広告〉の誕生」『思想』889
 喜多川周之 1982 「銀座のこの頃」『証言の昭和史5』学習研究社
 南博+社会心理研究所 1987 『昭和文庫1925~1945』勁草書房
 宮崎博史 1955 『緑野ふたたび』電通
 森山孝一 1941 「百貨店の催し物としての国策展覧会に就いて」『広告界』18-6
 中村秀之 1998 「逃げ去る都市」『10+1』13
 乃村工藝社編 1975 『70万時間の旅II』乃村工藝社
 小川喜久雄 1943 「国策宣伝と百貨店の展覧会」『印刷報道研究』69
 1944 「映画劇場の展覧会」『印刷報道研究』71
 坂上康博 1998 『権力装置としてのスポーツ』講談社
 櫻本富雄 1995 『日本文学報国会』青木書店
 櫻本富雄・今野敏彦 1985 『紙芝居と戦争』マルジュ社
 渋谷重光 1978 『語りつく昭和広告証言史』宣伝会議
 清水勲 1995 『漫画にみる1945年』吉川弘文館
 白根嵩 1939 「百貨店の国策宣伝」『広告文化』15
 津金澤聡廣 1998 『現代日本メディア史の研究』ミネルヴァ書房
 津金澤聡廣・山輝雄編著 1998 『戦時期日本のメディア・イベント』世界思想社
 内川芳美編 1976 『日本広告発達史』電通
 山口昌男 1995 『「敗者」の精神史』岩波書店
 吉見俊哉 1992 『博覧会の政治学』中央公論社
 1996 「近代空間としての百貨店」, 吉見俊哉編著『都市の空間 都市の身体』勁草書房

東京朝日新聞（および朝日新聞東京版）掲載の百貨店広告にみる国策イベント

掲載日	会場	イベント名	主催	後援・協賛
昭和10年1月19日	日・三	職業指導展覧会	大日本職業指導協会	文、内
2月8日	新・伊	六百年大祭記念大橋公展覧会	吉野朝史蹟地聯合会	文、陸、海、時事新報社
3月11日	日・白	日露戦役回顧展		
3月30日	日・高	大山元帥展覧会	東朝新	陸
4月6日	上・松坂	満州国皇帝陛下御來訪記念大満州展覧会	東朝新	外、陸、拓、満州国公使館
4月11日	日・三	満州帝国展覧会		
4月19日	日・三	水産文化展覧会	海国青年会	
5月15日	日・三	日本海海戦三十周年記念展覧会	東朝新	海
6月3日	日・三	絹の文化展覧会	日本中央蚕糸会	商、農
10月11日	上・松坂	帝国議會開設四十五周年記念伊藤博文公展	東朝新	内、貴族院、衆議院
10月26日	上・松坂	絹の文化展	日本中央蚕糸会	商、農
11月1日	日・高	こども愛育展覧会	(恩)愛育会	文、内
1936(昭和11)年				
昭和11年1月21日	日・三	国防に必要な白金展覧会	造幣局東京出張所	陸、海、内閣資源局
2月11日	日・白	選挙展	東日新	
3月29日	日・白	国産改善展覧会	日本商工会	商・臨時産業合理局
4月10日	日・白	生誕百五十年記念二宮尊徳先生展	報知新	文
5月7日	新・伊	全国青年創作劇業品展覧会	大日本聯合青年団、同女子青年団	
5月13日	上・松坂	空の護り浴衣地宣伝会	関東染染工業組合	陸軍航空本部
6月2日	日・高	第八回東京赤ちゃん審査会	日本児童愛護連盟	内、陸、海、文、拓
7月29日	日・高	船の博覧会		海、通
8月19日	日・三	朝鮮観光展覧会	朝鮮総督府鉄道局	
9月17日	日・白	ブラジル展覧会	日伯経済協会	拓
9月20日	上・松坂	勤王事績展覧会	勤王事績顕彰会、いびらぎ新	文、市、茨城県
9月26日	新・伊	国立公園指定記念展覧会	東京鉄道局、国立公園協会、日本旅行協会	
9月30日	日・白	幕末尊王秘史展覧会		
1937(昭和12)年				
昭和12年2月5日	銀・松	建国祭梅の節句華道大会	建国祭本部	
5月25日	銀・松	朝日「神風」凱旋歓迎展		
8月1日	日・白	世界教育會議時代風俗展		文、帝国教育会、国際観光局 国際文化振興会
8月3日	日・三	東北振興物産宣伝大会	東北六県	商
8月3日	日・白	北支事変ニュース映画の会	柏葉婦人会	
8月8日	日・高	北支事変ニュース写真展覧会	東朝新	
8月10日	上・松坂	国防献金洋画大展覧会	全美術家報国運動本部	読新
8月10日	上・松坂	北支第一線写真展	東日新	
8月13日	日・高	航空日本展覧会	帝国飛行協会、東朝新	
8月18日	日・白	北支事変展 ・国防映画の会 ・時局演劇大会 ・事変講演と演奏の会	東日新 ライオン口衛衛生部、日本飛行少年団 クラブ菌磨 柏葉婦人会	陸、海
8月25日	銀・松	献金報国日本画展覧会	日本画会	読新
8月28日	新・伊	日支事変ニュース写真展	報知新	
8月30日	上・松坂	日支事変ニュース映画会		[提供]読新
8月31日	銀・伊東	日支事変ニュース写真展		[提供]同盟通信社
9月1日	日・白	朝日事変ニュース映画の会	実業士友会、柏葉婦人会、東京経済倶楽部	
9月9日	日・白	上海戦線展	アサヒグラフ	陸、海
9月18日	日・白	絹の文化展	日本中央蚕糸会	商、農
9月24日	日・高	支那事変ニュース映画大会		[提供]東朝新
10月9日	上・松坂	支那事変展覧会	同盟通信社	陸、海
10月10日	日・白	南京展		
10月17日	日・高	支那事変陸軍海軍戦利品展	読新	陸、海
10月17日	日・高	愛国国民服展覧会	日東紡績	
11月6日	日・白	時局美談展覧会	愛国婦人会	陸、海、報知新
11月19日	日・高	日独伊防共協定記念展覧会	防共協定記念会、報知新	外、陸、海
11月25日	上・松坂	時局漫画心算ポスター展	内閣情報部、同盟通信社	
12月9日	銀・松	戦線スケッチ展	東朝新	
1938(昭和13)年				
昭和13年1月1日	日・高	戦捷日本コドモ博覧会	ライオン菌磨	
1月1日	日・三	蒙古と北支展覧会	読新	外、陸、拓、善隣協会
1月31日	日・白	輝く銀翼展覧会	アサヒグラフ	陸、海
2月8日	日・高	世界に渦巻く思想戦展覧会	内閣情報部	
4月1日	上・松坂	新北支展覧会	東日新	
4月15日	日・高	第1回日本文化協会画劇賞当選紙芝居大会	日本文化協会	外、陸、海
4月19日	日・高	支那事変海軍従軍画家スケッチ展	海軍協会	内、文、警
4月24日	日・高	「日の丸」展覧会	東日新	海
5月6日	日・三	新貨幣文様図案展	造幣局	日本国旗会
5月25日	銀・松	海洋写真展覧会	アサヒカメラ	
6月1日	日・白	大橋公父子展覧会	軍事史学会	陸、海、文
6月15日	銀・松坂	北支従軍スケッチ展		
7月18日	日・高	時局下の愛国朝鮮大展覧会	京城日報社	
7月19日	日・三	必要物資代用品展覧会		商
8月1日	日・三	青年徒歩旅行展覧会	都新、(社)日本旅行協会	内、文、鉄、厚
8月11日	上・松坂	支那事変一周年記念白衣の天使感謝展	報知新	陸、海、日本赤十字社
8月12日	日・高	国防産業展覧会	読新、日本電報通信社	外、陸、拓、対満事務局 同盟通信社、満州国通信社

8月19日	日・白	戦線写真展	陸・つわもの編集部	
8月19日	銀・松	日独伊防共少年軍展	東日小学生新	外、文
8月19日	日・三	輝く国産人絹織物展覧会	人絹織物輸出振興会	商
8月20日	日・三	国民防空展覧会	内	
8月27日	新・伊	従軍画家小品展覧会		大日本従軍画家協会
9月1日	銀・松坂	物の利用更正展	精動中央聯盟	商、大、読新
9月1日	日・三	明治英雄名蹟展	日本精神発揚会	陸、海
9月2日	日・三	第六回児童製作品展覧会	子供の科学	
9月16日	新・伊	絹の愛用品展覧会	日本中央蚕糸会	商、農
10月5日	上・松坂	漢口攻略戦報道展	(社)同盟通信社	内閣情報部
10月8日	日・白	赤ちゃん健康審査会	東京児童愛護聯盟、東日新社会事業団	市、大日本聯合母の会
10月20日	日・高	満州資源博覧会	満州新	満州国政府、南満州鉄道(株) 満州重工業開発(株)
10月23日	日・三	カメラ従軍漢口最前線展覧会	アサヒグラフ	
10月27日	日・白	陸海軍元勲景仰展覧会		陸、海
11月13日	上・松坂	女子体育展	女子体育振興会	文、厚、東朝新
11月19日	日・三	帝都交通展覧会	鉄	
11月30日	日・三	戦時家庭経済展覧会	日本女子大学	大、文、商、厚、東朝新、桜楓会
12月11日	日・高	皇軍大捷新東亜建設展覧会	読新	内閣情報部、海、陸
12月13日	日・白	支那事変武勲展	読新	陸、海
1939(昭和14)年				
昭和14年1月2日				
1月20日	日・三	国史の華日本女性展		
1月21日	上・松坂	従軍写真展		
1月21日	日・高	盟邦訪問写真展	アサヒカメラ	
1月21日	日・三	日本精神宣揚児童文化展覧会	日本児童文化協会、(恩)愛育会	陸、海、文、通、厚、市、日本文化聯盟
1月26日	日・高	「皇軍将士に感謝の歌」発表演奏会		
1月29日	銀・松坂	林美美子従軍記録戦線展	アサヒ・グラフ	
1月31日	新・伊	国策セルロイド展	東京・大阪両セルロイド普及会	商、大、府、市、東京商工会
2月1日	銀・松	東京府公定価格品展示会	府	
2月1日	日・白	建国祭本部華道大会		
2月23日	日・高	海軍従軍展覧会	海軍協会	海
2月26日	日・白	大陸進出の英雄豊太閤展覧会	読新	
3月4日	上・松坂	国策代用品第二回宣伝	国策代用品普及協会	商
3月5日	上・松坂	戦車隊の華西住大尉展	東日新	陸
3月19日	日・三	新東亜建設資源開発展覧会	日本工業新	企、陸、海、商、拓、満州国政府
3月30日	上・松坂	東京防空展	東部防衛司令部、警、府、市	
4月15日	日・高	紀元二千六百年奉賛展覧会	紀元二千六百年奉祝会	内閣紀元二千六百年祝典事務局
5月6日	日・白	時局産業科学展	実業教育振興中央会、日本商工会	文、商、陸、海、拓
5月14日	上・松坂	南支海南島展	読新	陸、海
5月20日	新・伊	讀えよ荒鷲展覧会	大日本飛行少年団、大日本航空婦人会	陸、海、通、帝国飛行協会 ライオン齒磨
5月24日	日・三	第三回海洋美術展覧会	海軍協会海洋美術会	海、東朝新
5月25日	銀・松	海洋写真展	アサヒカメラ	海、海軍協会
5月25日	日・高	ラグーザお玉夫人遺作展覧会		東日新、伊太利大使館
6月15日	銀・松坂	子供の健康展	東朝新	文、厚
7月14日	日・白	無敵海軍陸戦隊展	東日新、海軍協会	海
7月19日	日・三	躍進代用品展覧会	(社)代用品工業協会	商
8月1日	日・三	東亜大陸旅行事情展覧会	鉄、南満州鉄道(株)、日本旅行協会	
8月4日	新・伊	日本薬用植物展	東京本草会、報知新	厚、府
8月16日	上・松坂	時局ポスター展	精動ポスター作家聯盟	内閣情報部、精動中央聯盟
8月17日	上・松坂	興亜産業と宣伝戦展覧会	日本電報通信社	〔協賛商品会社21社〕
8月18日	日・三	興亜通信展	通	
8月18日	日・高	我等の海軍展	大日本海洋少年団、東京艦橋会、東日新	海、文、厚、府、市、海軍協会
8月26日	日・高	戦時生活ス・フ洗濯展		
8月30日	日・白	排英展	報知新	
9月23日	日・高	報国・絹の展覧会	日本中央蚕糸会	商、農
9月26日	上・松坂	代用毛糸・私蔵毛糸活用編物展覧会	大日本編物研究会	
10月1日	日・高	映画法実施記念映画文化展覧会	大日本映画協会	内、文
10月19日	上・松坂	軍馬展覧会	東日新	陸、〔賛助〕農
10月21日	日・三	橋本閑雪聖戦記念画展示会		
10月27日	新・伊	東洋各国土産品展覧即売会	日本土産品協会	国際観光局
11月14日	日・高	「ニッポン」世界一周大飛行完成記念展	東日新	
11月15日	上・松坂	回教園展覧会	大日本回教教会、東京イスラム教団	外、文、商、通、拓、国際観光局 国際文化振興会、回教園研究所 東日新
11月21日	日・三	ステーブルファイバー優良製品展覧会	日本ス・フ織物工業組合連合会、日本織物工業組合連合会、日本ス・フ協会	
12月23日	新・伊	北門の護 権太展覧会	権太庁、(財)拓殖奨励館	拓
1940(昭和15)年				
昭和15年1月1日				
	日・三	紀元二千六百年奉祝展覧会「我等の祖先」	紀元二千六百年奉祝会	内閣紀元二千六百年祝典事務局 内閣情報部
1月4日	日・白	紀元二千六百年奉祝展覧会「我等の国土」	同上	同上
1月4日	新・伊	紀元二千六百年奉祝展覧会「我等の新天地」	同上	同上
1月6日	日・高	紀元二千六百年奉祝現代名家書道綜合展		
1月9日	銀・松	紀元二千六百年奉祝展覧会「我等の精神」	紀元二千六百年奉祝会	内閣紀元二千六百年祝典事務局 内閣情報部
1月9日	上・松坂	紀元二千六百年奉祝展覧会「我等の生活」	同上	同上
1月11日	日・高	紀元二千六百年奉祝展覧会「我等の皇軍」	同上	同上

1月16日	日・三	国際文化戦展覧会	国際報道工芸(株)	国際文化振興会
1月20日	銀・松坂	紀元二千六百年奉祝展覧会「我等の新生活」	紀元二千六百年奉祝会	内閣紀元二千六百年祝典事務局 内閣情報部
1月30日	上・松坂	志憲塔展覧会	大日本志憲顕彰会、東朝新	
2月1日	上・松坂	近畿聖地展覧会	近畿聖地顕彰会	
2月9日	日・高	思想戦展覧会	内閣情報部	
2月24日	銀・松坂	神社史料展覧会	府観光協会	市、府、府神職会
3月8日	新・伊	優秀代用品展覧即売会	東京商工会、(社)代用品協会東京支部	府、[協力]国策代用品普及協会
3月15日	日・三	物価と生活展	府	
3月17日	上・松坂	私立青年学校振興展	府私立青年学校協会	府、警
4月2日	日・三	横山大観先生紀元二千六百年記念作品展		
4月2日	日・高	横山大観先生紀元二千六百年記念作品展		
4月3日	上・松坂	日華外交展	東日新	外
4月3日	上・松坂	銃後のヒットラーユーゲント展	日独文化協会、ヒットラーユーゲント	大日本連合青年団
4月3日	日・三	紀元二千六百年奉祝史料展覧	帝国図書館	
4月9日	銀・松坂	日向高千穂展覧会		
4月9日	日・高	傷兵慰問特輯紀元東西名家新作日本画展	詩と美術社	
4月17日	日・高	紀元二千六百年いけばな展	大日本華道会	市
5月1日	日・三	篤生結婚相談所記念国民優生資料展視	厚	
5月14日	上・松坂	紀元二千六百年記念育児展覧会	(財)育嬰協会	厚、紀元二千六百年奉祝会、読新
5月15日	日・三	紀元二千六百年記念戦時経済展覧会	東京商工会	厚、日本商工会
5月15日	銀・松坂	銃後ポスター展	全日本産業美術聯盟	軍
5月18日	新・伊	輝く海軍生活展	海軍協会、海防義会、大日本海洋少年団 大日本飛行少年団、大日本航空婦人会 東日新	海
5月18日	日・白	海軍爆撃隊展	海軍協会、東日新	海
5月21日	銀・松	海洋写真展	アサヒカメラ、海軍協会	海
5月21日	日・高	海洋週刊	海軍協会、読新	海
5月22日	日・三	第四回海洋美術展覧会	海洋美術会、海軍協会、東朝新	海
5月23日	上・松坂	紀元二千六百年記念海戦美術展	海軍協会、海防義会、東日新	海
5月29日	日・高	第十二回全東京赤ちゃん審査会	日本児童愛護聯盟	内、陸、海、文、厚、拓
6月4日	銀・松	東亜民族体育展	大日本体育協会	厚、文、東和商事映画部
6月14日	日・三	明治大正昭和経済文化展覧会	東洋経済新報社	外、大、農、商、通、鉄
6月20日	日・高	第二回貿易局工芸品輸出振興展覧会	商・貿易局	
6月23日	日・三	東北民芸品展覧会	雪国協会、日本民芸協会	文、農、東北六県、東北興業(株)
7月1日	日・高	全日本新興代用品展覧会	(社)代用品工業会、国策代用品普及会 (財)戦時物資活用協会	府、市、東京商工会
7月2日	新・伊	仰げ雲峰富士山展覧会	読新	内、鉄、厚、山梨県、静岡県 国際観光局、国立公園協会
7月16日	日・高	国策防空用品宣伝会		東京防空司令部、警、市、建築学会 大日本防空協会、府国防科学協会 山と溪谷社
7月16日	日・高	東京山岳写真会展	東京山岳写真会	
7月19日	日・三	傷痍軍人遺族家族製作品展覧会	軍、(恩)軍人援護会、府、市	
7月20日	銀・松	精鋭陸の空軍展		陸
7月31日	日・高	戦時下の育児展覧会	日本児童愛護聯盟	陸、海、厚、(恩)愛育会
8月3日	日・三	興亜進進児童展覧会	読新	文、厚
8月8日	日・高	防諜ポスター展	読新	陸
8月13日	上・松坂	大南洋展覧会	南洋庁、日本拓殖協会、報知新南方調査会	海、外、拓
8月24日	日・高	独逸軍の電撃戦映画の会		陸・情報部、海・軍事普及部
9月5日	上・松坂	頼野寛蔵氏遺作展	陸軍美術協会	陸・恤兵部
9月10日	上・松坂	第一回日華交歓芸術写真展	興亜有志会文化部	日本写真会、東京写真研究会 中華民国新民会
9月10日	日・高	使って育て代用品映画と国策漫才の会	(社)代用品工業会、(財)戦時物資活用協会 国策代用品普及会、日本商工会	商、精動連盟本部
9月11日	日・三	代用品愛用強調運動	(社)代用品工業会、(財)戦時物資活用協会 国策代用品普及会、日本商工会	商、精動連盟本部、府、市 東京商工会
9月20日	日・三	報国絹新製品展覧会	日本中央蚕糸会	商、農
9月22日	日・三	航空日制定記念航空科学展覧会	帝国飛行協会、読新	陸、海、通
10月1日	日・高	第二回輸出工芸品展覧会	商・貿易局	
10月1日	日・高	紀元二千六百年奉祝日本古武道展覧会	府、(財)日本古武道振興会	
10月1日	上・松坂	銃後奉公展	軍、府、市、(恩)軍人援護会	(恩)軍人援護会府支部 市銃後奉公会聯合会
10月2日	日・三	電信七十年電話五十年放送十五年記念展	電気通信協会、電気通信学会 通信博物館、日本ラジオ協会	通、日本放送協会
10月4日	日・白	戦うドイツ展		
10月8日	上・松坂	家庭編物製作奨励展	大日本編物研究会	
10月12日	銀・松坂	家庭生活刷新展	東京商工会、東京聯合婦人会 代用品工業協会	商、府、市、精動連盟本部
10月15日	日・三	全日本漫画展覧会	精動連盟本部	
10月15日	日・三	軍医画家松島順南支風景画展覧会		
10月20日	日・白	優良輸出品展示会	日本優良物産協会	
10月22日	東京・三	国民服普及の会	被服協会、国民服協会	
10月23日	銀・松坂	小国民の自動車画展	トヨタ自動車工業(株)	文
10月24日	日・三	節米料理と代用食展覧会	精動連盟東京本部、日本料理研究会 東京割烹教育者協会	
10月30日	日・高	神武天皇聖蹟及伝説地絵画展覧会	紀元二千六百年奉祝会	
11月1日	銀・松坂	ピルマ展	日本ピルマ協会	外、拓、商、朝新

11月1日	上・松坂	錦絵による明治文化展	史蹟名勝天然記念物保存協会東京支部	明治神宮祭奉祝会
11月1日	銀・松	聖徳奉賛明治維新展	東日新	内、文
11月1日	日・白	絹織物標準品展	全日本絹織物工業組合聯合会	商、農、日本人造絹織物工業組合、日本百貨店組合、日本内地向絹織物卸商業組合聯合会、中央物産統制協力会議服飾改善委員会聯合会
11月1日	日・高	日本民族海外発展展覧会	紀元二千六百年奉祝海外同胞東京大会	(指導)内閣情報部
11月2日	日・三	明治神宮御鎮座二十年祭奉祝展覧会	明治神宮祭奉祝会	内、府、市、東京商工会
11月3日	日・三	紀元二千六百年記念靈峰富士百態写真展		
11月5日	上・松坂	中・南米展		拓
11月9日	日・三	蘭印と仏印を識る展覧会	市	外、海、拓
11月19日	上・松坂	紀元二千六百年記念盲人文化展	中央盲人福祉協会	朝新・社会事業団
11月20日	日・三	明治大正昭和挿絵文化展覧会	日本電報通信社	文
11月21日	新・伊	廃品利用家庭手芸展	岐阜県立本巣高等女学校	
11月28日	新・伊	国防調時局銘仙展示会	伊勢崎織物工業組合、群馬県庁商工課	商、厚、[賛助]農
12月20日	日・高	海外競争品見本展示会	貿易組合中央会	商
1941(昭和16)年				
昭和16年1月4日	銀・松	転換期の世界展	同盟通信社	
1月7日	日・三	西園寺公を偲ぶ展覧会	読新	外、文
1月7日	日・高	科学する小国民展覧会		
1月14日	上・松坂	生活新体制を讃ふる会	大政・国民生活指導部	
1月22日	上・松坂	日本写真美術展覧会	大毎新、東日新	
2月4日	日・高	建国祭「梅の節句」華道・茶道大会	建国祭本部	
2月5日	銀・松	建国祭「梅の節句」華道・茶道大会	建国祭本部	
2月7日	日・三	建国祭「梅の節句」華道・茶道大会	建国祭本部	
3月4日	銀・松	虎と北満自然紹介展	文芸春秋社、満州日日新	
3月5日	日・三	陸軍血兵展覧会	日本百貨店組合	陸
3月6日	銀・松	戦陣訓展	読新	陸、報道部
3月7日	上・松坂	隣組展覧会	市	
3月7日	上・松坂	陸軍血兵展覧会		陸
3月14日	新・伊	代用品展	市、東京商工会、(社)代用品協会東京支部	商、府、大政・国民生活指導部 日本商工会
3月16日	銀・松	戦時下の生活展	府	商、警
3月18日	日・高	新時代洋家具展		
3月27日	日・高	ペリアンヌ女史日本創作品展覧会	商・貿易局	
3月28日	新・伊	空地利用園芸展覧会	府立園芸学校、駒沢造園会 東京フロリスト協会	府、市、府農会、市農会 空地利用協会
3月28日	日・白	体位向上釣の展覧会		
4月1日	日・三	戦ふ独伊壁新聞展	報道美術協会、報道技術研究会	
4月1日	日・高	皇国茶道会結成記念大茶会	皇国茶道会、皇国茶道連盟	
4月1日	上・松坂	躍進大満州展	満州日日新、大連日日新	満州国政府、満州帝國協和会、陸海、南満州鉄道、満州重工業、拓満州拓殖公社、関東軍司令部 駐日満州大使館、対満事務局
4月9日	日・三	ブラジル児童図書手工作品展覧会	国際文化振興会、日伯中央協会 神戸日伯協会	外、文、拓、情、伯刺西爾國大使館
4月9日	日・三	朝鮮事情展覧会	朝鮮總督府	
4月10日	日・高	山西開発展覧会	朝新	陸
4月11日	新・伊	躍進朝鮮事情展覧会	朝鮮總督府	
4月15日	上・松坂	国民服普及の会	被服協会、大日本国民服協会	日本百貨店組合
4月15日	新・伊	国民服普及の会	被服協会、大日本国民服協会	日本百貨店組合
5月1日	日・三	南方展覧会	(財)文明協会、東日新	外、海、文、農、拓、日本拓殖協会 日本捕鯨業水産組合、南洋協会
5月1日	日・三	橋本関雪聖戦記念画展覧会	興亜写真報国会	陸、商、文、軍
5月7日	上・松坂	防諜から見た写真指導展覧会	綜和工芸	大、府工芸協会
5月9日	新・伊	戦時文化工芸展	同盟通信社	海
5月17日	銀・松	展望のアムカ海軍	東京商工会	企、情、外、大、陸、海、農、商、連 鉄、拓、厚、警、府、市、大政 大日本産報会、日本商工会
5月20日	日・三	高度国防経済展		海、通
5月20日	日・三	経済と海軍力展	海運貿易新	海、市
5月23日	新・伊	拳れ血兵讃へ上海軍記念日	東日新	
5月24日	上・松坂	軍事保健院献画展覧会		
5月24日	日・高	海洋面展覧会	少年文学協会	海
5月24日	日・高	南支慰問報告画展観		
5月27日	銀・松	海洋写真展	アサヒカメラ、海軍協会	海
6月3日	日・三	雷の科学展覧会	雷雨警報協同連絡会	通、東京鉄道局、中央气象台
6月3日	日・三	戦時下における国際宣伝展	読新	情、[賛助]東京帝大新聞学研究室
6月10日	日・高	海軍献納画展覧会	海軍協会	海
6月17日	上・松坂	戦費と国債展	日本銀行	大、陸、海、通、情、府、市
6月20日	日・高	工芸品輸出振興展覧会	商・貿易局	
6月21日	日・三	東北民芸品展	雪国協会、日本民芸協会	文、農、商、情、大政、東北六県 東北興業(株)
6月25日	日・白	四国九州物産展	日本電報通信社	商、農
7月3日	日・高	支那事変記念日「龍子画心応召」展覧会		情、大政
7月16日	日・高	東京高等商船学校 海の若人展	読新	海、文、農、連、情
7月19日	日・白	映画新体制展	日本映画雑誌協会	
7月19日	新・伊	資源回収と代用品展	商	

7月22日	日・三	傷痍軍人遺族家族製作品展覧会	軍、(恩)軍人援護会、府、市 大日本傷痍軍人会	
7月24日	銀・浅・松	海へ伸び行く日本展	読新	海、文、農、通、情
7月31日	日・高	戦争と広告文化展		[企画]ライオン本舗 情
8月2日	上・松坂	新生中国写真展覧会	(財)写真協会	
8月23日	日・高	国防防空展覧会	大日本防空協会、同帝都支部、読新	東部軍司令部、府、警、市
9月2日	新・伊	南進基地台湾展覧会		拓、台湾総督府
9月3日	銀・松	東京貿易品展示会	市、東京商工会	大政
9月6日	上・松坂	網の科学展覧会	日本中央蚕糸会	全日本絹織物工業組合、農、商
9月13日	日・三	全日本少年発明工夫製作品展	帝国発明協会、大日本雄弁会講談社	文、陸、海、商
9月13日	銀・松	商品の科学展覧会	大阪府工業奨励館、同実用規格普及会	
9月13日	日・高	航空美術展	大日本航空美術協会、朝新	陸、海、通、情、大日本飛行協会 大日本防空協会 [情報局選]
9月13日	各店	航空日航空図案応用品展示会		
9月13日	上・松坂	航空写真展	大日本飛行協会、読新	
9月13日	上・松坂	昭和東京百景版画展		
9月13日	日・白	航空科学博		
9月20日	銀・松	学生航空展	朝新、大日本飛行協会	陸、海、航空局、情
9月20日	銀新・三	爆撃と空中戦展		
10月1日	日・高	軍人援護写真展	日本百貨店組合、興重写真報国会	軍、(恩)軍人援護会
10月1日	日・高	輸出工芸図案展覧会	商・貿易局	
10月2日	日・高	国策絹洋服地展示会	日本紡織通信社	商、農
10月2日	日・白	統後奉公強化展覧会	府、市	
10月3日	上・松坂	軍人精神敬彰展	都新	陸、海、情、軍、大日本忠靈顕彰会 軍人援護会、帝国在郷軍人会
10月7日	銀・松坂	吾が兵器陣写真展	朝新	陸・報道部
10月8日	銀・松	ゴビ砂漠写真展	読新	
10月14日	銀・松坂	増産文化映画「(東宝)土に生きる」写真展		
10月16日	日・白	建築展覧会	建築学会	
10月22日	日・三	大南洋展覧会	南洋団体連合会	外、陸、海、農、商、通、拓、南洋庁 台湾総督府
10月25日	銀・松	金属回収と代用品展	府資源回収連盟、代用品協会東京支部	商、府、警、市、戦時物資活用協会
10月28日	上・松坂	出征軍人美術家作品展	文化奉公会	
10月28日	上・松坂	独ソ激戦第一報写真展		
11月9日	浅・松	金属代用品展示会		
11月22日	日・三	芸能文化展覧会	芸能文化連盟、都新	文、厚、情、大政
11月25日	日・高	興亜大展覧会	大政、大日本興亜同盟	
11月25日	日・高	小村寿太郎侯三十年祭記念展	外	
12月9日	日・高	京都大衆向工芸品振興展覧会		
12月16日	銀・松	対米漫画展	建設漫画会	
1942(昭和17)年				
昭和17年1月4日	日・三	神国日本展覧会		
1月4日	銀・松	暴英の餌食となりシライラン脱出行絵巻展		
1月10日	新・伊	大東亜戦争展「タイ仏印方面」	報知新・東日新・同盟通信社・読新・都新 朝新東京本社・国民新・中外新報社	[指導]陸、海、情
1月10日	渋・東横	大東亜戦争展「総論編」	同上	同上
1月10日	日・高	大東亜戦争展「ホルネ・蘭印・濠洲方面」	同上	同上
1月10日	銀・松	大東亜戦争展「フィリピン方面」	同上	同上
1月10日	上・松坂	大東亜戦争展「支那大陸方面」	同上	同上
1月10日	日・三	大東亜戦争展「ハワイ・グワム・アメリカ方面」	同上	同上
1月10日	日・白	大東亜戦争展「マレー・ビルマ方面」	同上	同上
1月20日	日・高	山本提督の書簡特別展覧		
1月27日	日・三	翼賛美術展覧会	七三会	陸・恤兵部、大政
2月3日	日・高	大東亜解放展	大政、大日本興亜同盟	
2月16日	日・三	シンガポール展		
2月17日	新・伊	東京市国民学校職員芸能科作品展	市教育局、帝都教育会	
2月24日	日・高	カボク織維試作品展示会	(社)日滿協同カボク用途研究協会	
3月1日	新・伊	満州建国十周年慶祝展覧会	満州建国十周年慶祝会	
3月3日	日・高	陸軍士官学校展	朝新	陸
3月3日	上・松坂	陸軍少年兵展	東日新	陸
3月8日	銀・松	躍進陸軍展	朝新	陸
3月10日	上・松坂	三輪孝戦線スケッチ展		文化奉公会
3月17日	上・松坂	南方共栄圏時代裂展覧		
3月17日	上・松坂	町会隣組総力戦展覧会	市	情、大政
3月18日	銀・松坂	新興物資展	市、東京商工会、代用品協会	商
3月19日	日・高	決戦生活展	府、府物産統制協力会議	
3月31日	日・三	大東亜戦争献納大壁面展覧		
3月31日	上・松坂	陸海軍献金愛国和歌展覧会	大日本歌人会	
3月31日	新・伊	食料増産家庭園芸展覧会		
4月15日	上・松坂	大東亜海写真・土俗展	報知新	
4月21日	日・三	満州建国十周年慶祝展覧会「開拓編」	満州建国十周年慶祝会	
5月2日	上・松坂	満州建国十周年慶祝展覧会「民族編」	満州建国十周年慶祝会	
5月5日	日・三	大東亜経済建設展	東京商工会	情
5月5日	日・三	ジャバ・スマトラ・バリ美術写真展		
5月19日	新・伊	佐久間艇長讃仰展	海軍協会、海防義会、東日新	海、情
5月19日	上・松坂	海軍少年飛行兵展	海軍協会、読新	海、情
5月19日	銀・松	大東亜戦争海戦展覧会	海軍協会、朝新	海、情
5月19日	日・白	特殊艦艇展	海軍協会、報知新	海、情

5月20日	日・三	海軍兵学校展	海軍協会、都新	海、情
5月20日	日・高	無敵海軍潜水艦展覧会	海軍協会、朝新	海、情
6月3日	日・高	全日本工芸技術展覧会	工芸美術作家協会	文、商
6月5日	上・松坂	資源動員展覧会	戦時物資活用協会、代用品協会、商	
6月6日	新・伊	敵機敵艦展覧会	海軍協会、大日本飛行協会	情
6月20日	日・白	満州建国十周年慶祝展覧会「発展編」	満州建国十周年慶祝会	情
6月20日	日・高	大東亜の空を征くMC20展覧会	大日本飛行協会	陸、連、情、朝新
7月3日	日・三	傷痍軍人・軍人遺族家族製作品展	軍、府、市、(恩)軍人援護会 大日本傷痍軍人会	
7月4日	上・松坂	銃後奉公写真展	朝新、全日本写真連盟	軍、軍人援護会、情
7月7日	新・伊	大東亜建設工兵展	報知新	陸、情
7月9日	日・白	聖戦報告画展覧会		
7月14日	日・三	躍進造船展	朝新	農、連、海、情、[指導]海務院
7月15日	銀・松	大東亜戦争と海運展	朝新	海務院、情
7月17日	銀・松坂	南洋美術展	南洋美術協会、東日新	
7月22日	上・松坂	日本劇画院展覧会		情
7月24日	日・三	日満小国民書方図書展	満州国建国十周年慶祝会 大日本雄弁会講談社	文、情、対満事務局
7月25日	新・伊	勝ち抜く日本戦時生活写真展	(財)写真協会	大、情
8月4日	日・三	生活科学化展覧会		
8月15日	日・高	満州建国十周年慶祝展「資源と重工業」	満州建国十周年慶祝会	南満州鉄道、満州電信電話 満州重工業開発、満州電業
8月18日	銀・松	敗戦に喘ぐ米英新聞展	東日新	情、大
8月25日	銀・松	日本刀剣展	日本刀剣新	
8月25日	銀・松	アルミニウム輸出研究品展示会	東北六県及新潟県 アルミニウム工業連盟	商
9月3日	日・高	大東亜戦争画展		陸・報道部、海、情
9月15日	銀・松	空ゆく少年展	大日本飛行協会	陸、海、連、情
9月15日	日・白	航空青少年隊展	大日本飛行協会	陸、海、連、文、情
9月15日	銀・松坂	模型飛行機展	大日本飛行協会、朝新	海、連、情
9月15日	銀・松	満州風物展	婦人面報社	満州国大使館、建国十周年慶祝会
9月16日	上・松坂	軍神加藤少将讃仰展	大日本飛行協会、読新	陸、連、情
9月26日	日・三	南方写真展覧会	朝新	陸、海、情
9月29日	日・三	全日本小国民発明工夫展覧会	帝国発明協会、大日本雄弁会講談社	文、陸、海、商、技術院
10月1日	銀・松	戦争と白金展	戦時物資活用協会、日本貴金属統制(株)	
10月1日	銀・松	興亜計量展	市	
10月3日	新・伊	軍人援護ポスター展	東日新	軍、(恩)軍人援護会
10月6日	日・三	衣料適正価格展	府繊維品査定口口会	商、東府、警
10月7日	日・高	機甲部隊展	機械化国防協会	陸、情、読新、自動車統制会
10月13日	日・三	大東亜建設鉄道展	鉄	
10月16日	銀・松	絹の実用化展	全日本絹織物工業組合、日本中央蚕糸会	農、商
10月24日	日・高	工業展覧会	日本輸出入工業連合会	商、貿易統制会
11月1日	銀・松	公道価格による新作漆器展	日本漆器組合連合会	商
11月3日	日・三	独逸航空事情展	日独文化協会、朝新	情、独逸大使館
11月5日	上・松坂	西亜と南方圏古美術品鑑賞会	南方美術研究会	
11月10日	銀・松	大東亜共栄圏交易品展示会	市、東京商工会	
11月15日	日・三	興亜美術工芸品展覧		
12月1日	銀・松	戦う機展		情、大政・宣伝部
12月1日	新・伊	共栄圏の衣生活展覧会	日本衣服研究会	陸、海、情、大日本婦人会
12月1日	日・三	大海戦展	海、情、海務院	くろがね会、海軍協会、海防義会 大日本海洋連盟、読新
12月1日	銀・松	産業人体育大会練成写真展	警、東京産報会	厚、大日本産報会、読新
12月3日	日・三	軍人援護書画展	軍	
12月4日	上・松坂	盟主日本写真展	大日本興亜同盟、全日本写真連盟、朝新	陸、海、情
12月5日	銀・松	南方写真展	東日新	情
12月6日	日・三	傷痍軍人・軍人遺族家族製作品展示会	府授産統制協会、全国刷業協会中央会	(恩)軍人援護会
12月12日	銀・松	宣伝美術 戦う女性と少国民展	報国図案文化研究会	大政
12月25日	日・三	金属回収と代用品展覧会	代用品協会東京支部、生産と配給社	商、府、全国統制(株) 戦時物資活用協会
1943(昭和18)年				
昭和18年1月5日	日・高	愛国百人一首展	日本文学報国会、毎新	文、情、大政
1月5日	東京・三	東京産報結成三周年 勤労文化展		
1月6日	上・松坂	海軍献納画展		
1月13日	日・高	北支民芸展		華北交通(株)
1月16日	銀・松	国際秘密力とフリーメーソンリー展	毎新	情
2月3日	日・高	新興繊維活用展覧会	繊維需給調整協議会	陸、海、農、商、大東亜省、南洋庁、情
2月21日	日・三	戦時下育成玩具の与え方指導展		
3月5日	日・三	撃ちて止まむ 陸軍美術展	陸軍美術協会、読新	陸
3月5日	銀・松	勝ち抜く新興名品展	市、東京商工会、(財)代用品協会東京支部	商
3月9日	日・白	満洲国国民学校中等学校生徒作品展	満洲国帝国教育会、わかもと本舗	
3月9日	上・松坂	ウ・ゲ・インビルマ紹介風物画展	毎新	
3月12日	新・三	郵便貯金に因んだ川柳画展	通、貯金局	
3月17日	日・三	国民生活用品展	商	
3月17日	銀・松	京都染織美術展	京都染織美術協会	大政
3月23日	日・高	漆文化展覧会	日本漆文化協会	農、文
3月25日	銀・松	躍進する華北展	大日本興亜同盟、(財)写真協会	大東亜省、陸、海、情 北支那開発(株)、華北交通(株)
3月30日	新・伊	戦時食料増産東京園芸展	府立園芸学校、府立園芸学校同窓会	府、市

4月3日	銀・松	戦艦献納彫塑展	彫塑家連盟	大政
4月16日	新・伊	必勝日本の戦費展	府、市、警、大	大、連、陸、海、情、東京商工会 日本銀行、日本勧業銀行
4月20日	日・白	新生トリッピン展		
4月23日	日・三	印度展覧会	日印協会	情、外、陸、海
4月28日	上・松坂	戦艦献納芸術写真展覧会	日本写真技術家連盟	大政
5月2日	銀・松	戦時竹製品活用展	三重県竹製品組合連合会	三重県
5月8日	日・三	勝ち抜く経済展	東京商工会	情
5月21日	新・伊	海軍記念日ポスター図案展	海軍協会、海防義会、毎新	海、情
5月25日	銀・松	壮烈、山口・加来尙提督讃仰展	海軍協会、毎新	海、情
6月1日	銀・松	計量に関する児童作品展	市、日本度量衡協会	
6月9日	日・三	時局下の婦人標準服展	(財)大日本婦人服協会	
6月9日	銀・松	決戦下の婦人標準服展覧会	(財)大日本婦人服協会	厚、農、商、情、大政
6月11日	日・三	戦争と電波 戦う陸軍少年通信兵展	兵器工業会通信機部会、読新	陸
6月16日	銀・松	戦艦献納戦時下風俗画展	日本挿絵画家協会	大政
6月18日	日・三	戦う資源展		
6月26日	銀・松	郷土部隊戦跡画展	府、市	(恩)軍人援護会府支部 市統後奉公会連合会
7月2日	日・三	傷痍軍人遺族家族製作作品展		
7月2日	日・三	軍人援護ポスター展		
7月2日	上・松坂	現代生活工芸品展		
7月3日	日・高	山本元帥顕彰展覧会		
7月3日	銀・松	決戦漫画展	日本漫画奉公会、読新	陸、情
7月10日	日・高	造船と科学技術展	(財)科学動員協会	情、技術院、海、海務院、船舶試験所
7月10日	日・三	建艦費献納日本陶磁器工芸技術協会展		
7月15日	銀・松	家庭防空展覧会	内、警、大日本防空協会	
7月20日	日・三	南方宣伝画図案「日本に続け」展		
7月20日	日・三	日華交歓東京都国民学校児童作品展		
7月20日	新・伊	飛行兵志願相談展覧会	大日本飛行協会	情
7月20日	銀・松	更生利用展		
7月20日	上・松坂	聖戦下日本画展観		
7月24日	上・松坂	「学徒と荒鷲」展覧会	海軍協会、読新	海、情、写真協会
8月1日	銀・松	戦ふ朝鮮写真展	大政	朝鮮総督府
8月5日	日・三	通信防護展		
8月10日	銀・松	独立ビルマ展	大政、(財)写真協会	
8月10日	上・松坂	戦時退蔵衣料更生指導の会	東京都、大政・東京都支部	
8月14日	日・三	戦う日本服展覧会		
8月17日	日・白	現代名流歌人俳人作品展	日本文学報国会、日本産経新	軍、情
8月18日	日・三	戦う国鉄漫画展覧会		東京鉄道局、情、大政 (財)陸軍協力会
8月24日	日・高	グァム島紹介と物産展覧会		海、南洋開発(株)
8月28日	上・松坂	帝都戦時農園展	東京都	農、情
8月31日	日・白	中支那風物写真展		
9月1日	日・高	新しい日本のキモノ展		
9月1日	日・三	「翼への道」航空撃滅展	大日本飛行協会	
9月8日	日・三	戦艦献納工芸品展示会	大政、工芸美術作家協会	
9月11日	上・松坂	航空適性展	大日本飛行協会、読新	
9月17日	日・高	航空美術展覧会	大日本航空美術協会、大日本飛行協会 朝新	
9月18日	新・伊	必勝決戦衣服展		
9月18日	日・三	原価計算展覧会		
9月19日	銀・松	稀元素展覧会	科学動員協会	
9月21日	日・白	少年戦車兵展	機械国防協協会	陸、情、朝新東京本社
9月29日	銀・松	代用資材展示会	(社)代用品協会、日本商工会、商	
10月1日	日・三	海軍報道班員伊東深水「南方風俗スケッチ」展	朝新	
10月3日	新・三	全日本竹材応用発明新異品展	(社)帝国発明協会東京支部 (社)代用品協会東京支部	
10月8日	上・松坂	航空決戦展	写真協会	
10月10日	銀・松	日本魂明治浴画展覧会	国史会	
10月16日	日・三	模型製作作品展	子供の科学、学生の科学、航空少年 科学画報	文、陸、海
10月19日	上・松坂	端ぎれ更生活用展	大日本婦人会東京都支部	
10月22日	日・三	戦時文化発揚関西邦画展	朝新	
10月26日	上・松坂	潜水艦献納漆絵展覧会		
11月1日	日・三	決戦生活展覧会	大日本婦人会東都支部	
11月2日	日・三	戦う日本帯の展覧会		
11月2日	日・三	働く新女性服展示会		
11月2日	銀・松坂	手近にある薬用植物展	薬草と生花の会	
11月9日	新・伊	退蔵衣料活用展		
11月11日	日・三	写真展「華北はかく戦っている」	華北交通	
11月12日	銀・松坂	東京都生徒児童発明創案品展	東京都、帝国発明協会支部	
11月18日	日・三	新穀感謝会紙展覧会	大政	
11月19日	日・三	海軍と映画展覧会	松竹(株)、(社)映画配給社	海、朝新
11月25日	上・松坂	陸軍軍刀展覧会	陸軍兵器行政本部	
12月4日	銀・松	学徒海洋展覧会	大日本学徒海洋教練振興会、海防義会 海軍協会	毎新
12月10日	日・三	鬼原素俊九軍神の母を描く日本画展		
12月13日	上・松坂	決戦衣生活写真展	日本写真技術家連盟	

12月17日	日・三	大東亜神話伝説美術展覧会	大政・興亜総本部、大東亜芸術院	大東亜省、文、情
1944(昭和19)年				
昭和19年1月1日	日・三	戦う兵士の創意と工夫 戦陣生活展	読新	陸、情
1月4日	上・松坂	必勝日本海軍展	海軍協会、毎新	
1月4日	日・白	隣組決戦展	東京都	情
1月4日	銀・松	続け陸軍少年兵写真展	毎新	陸、情
1月21日	新・伊	戦時衣料更生指導会	東京都小石川・中野皆働幹旋所	
1月24日	日・三	興亜志士顕彰展	大政・興亜総本部、大東南宗院	
1月25日	日・三	科学玩具考案展	帝国発明協会	文、技術院、情
2月2日	日・三	「あの旗を撃て」映画展	東宝(株)、(社)映画配給社、毎新	陸、情、比島派遣軍報道部
2月8日	日・三	国民座石鎧を主題として色紙画展覧会	如水画談会	
2月29日	日・三	加藤隼戦隊映画展	東宝(株)、読新	大本営陸軍報道部、(社)映画配給社
3月3日	日・三	前線と女性展	大日本婦人会、同東京都支部 東京都産報会	厚、軍需省、大政、情 (社)写真協会
3月3日	上・松坂	大東亜写真交歓展覧会	全日本写真連盟、朝新	陸、海、大東亜省、情
3月7日	日・三	戦う報道写真展	日本報道写真協会	(財)写真協会、陸、海、情、大政
4月11日	日・三	新鋭機は僕等ぞ 創作模型航空機展	大日本飛行協会	文、情、航空局、陸軍航空本部 海軍航空本部
4月18日	東京・三	時局下に相応しき 婦人子供活動服展		
5月12日	日・三	美術展	日本美術及工芸統制協会	農商省、文、大東亜省、情
5月12日	日・高	美術展	日本美術及工芸統制協会	農商省、文、大東亜省、情
5月23日	日・三	進め海軍ポスター展	海軍協会、海防義会、日本宣伝協会、毎新	海、情、大政
6月10日	日・三	仏印事情展	大政・興亜総本部	大東亜省、情、日本写真公社
6月27日	日・白	造船戦士内山英一遺作画展	大日本産報会中央本部 国民徴用援護会東京支部	
7月4日	日・白	五つの小包展覧会	通	
7月5日	銀・松	第二次撃墜B29残骸公開	毎新	東京師団
7月19日	日・三	次戦海運絵画展		海、情、海運総局
7月19日	日・白	千億円の成果展	大政	大
7月26日	日・白	行かう満州東京村展	東京都、東京商工経済会	
8月9日	日・三	兵站基地満蒙展	(社)揚子江社、(社)日満中央協会	
9月20日	日・三	全日本小国民発明工夫製作品展	帝国発明協会、大日本雄弁会講談社	文、陸、海、情、技術院
10月4日	日・三	軍事援護美術展	(社)日本美術報国会	[指導]軍
10月7日	銀・松	武装台湾展		
12月6日	新・伊	必死必中航空展	大日本飛行協会、東京新	陸、海、軍需省、情
12月8日	日・三	戦時美術展	新制作派協会	陸
12月15日	銀・松	増産満州写真展	満州国興農合作社中央会、中央農業会	大東亜省、農商省、情、朝新 満州国通信社
12月19日	日・三	(殊勲馬乗り体当中)中野松美機特別展観		
1940(昭和20)年				
昭和20年1月3日	日・三	戦う南方映画展	大政・興亜総本部	
1月13日	日・三	泰国防空ポスター展	東亜交通公社	陸、報道部
1月14日	日・三	軍需生産美術展	朝新、美術推進隊	
1月18日	新・伊	本土防空展覧会	日本飛行協会、東京新	陸、海、情、[指導]東部軍

【略語対応表】

文(文部省)・警(警視庁)・外(外務省)・厚(厚生省)・企(企画院)・大(大蔵省)・陸(陸軍省)・海(海軍省)・農(農林省)・商(商工省)・拓(拓務省)
 軍(軍事保護院)・内(内務省)・大政(大政翼賛会)・産報会(産業報国会)・府(東京府)・市(東京市)・情(内閣情報局)・精動(国民精神総動員)
 鉄(鉄道省)・通(逓信省)・商工会(商工会議所)・(恩)(恩賜財団)・新(新聞社)・読(読売)・大毎(大阪毎日)・東朝(東京朝日)・東日(東京日日)
 銀(銀座)・新(新宿)・日(日本橋)・上(上野)・浅(浅草)・洪(渋谷)・高(高島屋)・白(白木屋)・松(松屋)・松坂(松坂屋)・三(三越)・伊(伊勢丹)
 伊東(伊東屋) ※なお「東京・三」は、三越日本橋本店・銀座店・新宿店において同時開催されたことを示す。

Concerning the national policy exhibition at the department store

ABSTRACT

When we examine newspaper advertisements by department stores in the second decade of the showa era we discover that a lot of national policy exhibitions were held at department stores after the outbreak of World War II. Up to this time, the propaganda of national policy is often discussed as the process of the operation of thought and consciousness of one-sided people through the mass media-especially through radio or newspaper--in the totalitarian state. But we must not ignore the aspect of propaganda as amusement and popular culture, too. In this paper, I try to think about the reason why department stores were used as the place of national policy exhibitions and how they played an active part as the main locatiou for such exhibitions until the last years of the war, with reference to the stage of the development of media environment and urban populdr culture in those days. And I try to point out the characteristics of the media of department stores and exhibition before Word War II in Japan.

Key word : national policy exhibition, department store, propaganda